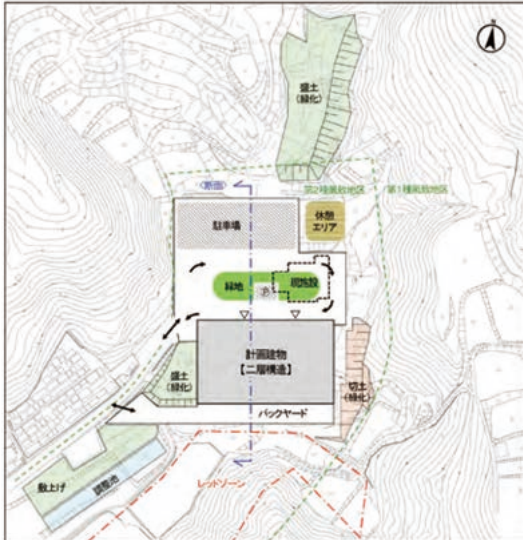


クローズアップ定例委員会

8月19日 福祉文教委員会 新火葬場の整備方針について

昨年7月に新火葬場の建設地が最終決定され、施設整備の内容を検討する各種調査の実施に加え、市民ワークショップを開催するなどしてまとめた具体的な整備方針について協議しました。



建物の整備方針

- ・ 現施設の南側に配置する
- ・ 敷地造成に伴う森林の伐採や地山の掘削を最小限に抑える
- ・ 構造は地上1階、地下1階の2層構造で可能な限り木造とする
1 階：ホール・トイレなど 待合室と告別・収骨室を4室ずつ
地下：火葬炉4基と動物炉1基を設置
- ・ 高さ：平均地盤面から10m以下
- ・ 規模：建築面積 1,100㎡程度／延べ床面積 2,100㎡程度
- ・ 概算事業費
設計・監理、用地、敷地造成、建築、火葬炉設備、備品を含め約33.1億円
- ・ 供用開始：令和12年4月
- ・ 令和7年11月に設計事業者を公募型プロポーザル方式で募集



関連するインフラ整備も計画

新火葬場建設に先行して道路・交差点改良、給水設備、下水道管、道路融雪設備など周辺のインフラ整備について、本年度内に各種設計に着手、令和8～9年度に工事を行う(概算事業費は約6.2億円)

○議会の視点

問 建物は二層構造となっているが、利用者の動線と平屋建てとのコスト比較は。

答 利用者は1階フロア内での短い動線で移動が可能。
昇降設備や地下部の構造に費用がかかるが、工期短縮も含め総工費が縮減できると試算。

問 ペットの火葬は。

答 民間で個別火葬サービスが行われているため、これまで通り合同火葬方式を考えている。

問 内装を含む木質化や伝統工芸の採用は。

答 高山らしい空間として今後の設計の中で検討していく。

問 風致地区内における施設建設は。

答 指定されている第2種風致地区で条例や都市計画書を見直したりはせず、この地区指定の中で収められるような形で具体化していく。

問 必要な財源の確保は。

答 国の補助金・交付金はなく、積み立てている火葬場整備基金約10億円を充てる。

問 必要となる用地取得は。

答 地権者からは協力の意向をお聞きしており、来年度に取得する予定。

問 道路幅員の確保など周辺のインフラ整備は。

答 住宅などが無く拡幅できる区間はすれ違いが容易にできる幅員に拡幅する。
拡幅できない区間は道路融雪設備を設置することで冬期でも幅員を確保する。

問 火葬の間、待機できる待合のスペースは。

答 近年の利用状況などを踏まえ1室あたり30人程度の待合が可能な45㎡以上とする。

問 駐車スペースは。

答 マイクロバス4台に加えて普通車は1グループあたり5台で最大4グループが利用できる20台程度を考えている。

問 地元住民の方々への配慮は。

答 道路融雪設備の設置や交差点改良など、できる限り地域からの要望に応じていく。